

【表2】秀吉期から江戸初期に代替わりした主な外様大名の初代藩主とその先代の呼称(色付けは「先代」を藩祖(0代目)としている藩) (141112 仁々竹)

No.	藩主家・藩名(別名)	「先代」(生没年)	地元発行文献にみる先代の「藩」関係呼称〔情報源〕	初代藩主(生没年)	「藩」成立過程	石高(秀吉期→江戸初期)
1	南部家・盛岡(南部)藩	南部(石川)高信?(1495-1571?)、南部信直?(1546-1599)	信直初代藩主⇒9点 利直初代藩主⇒3点(信直を藩祖とするもの若干) 〔岩手県立図書館〕	南部信直(1546-1599)、南部利直?(1576-1632)	信直は陸奥南部家一族の高信の子。1582年本家を継ぎ26代当主、三戸城主。86年、前田利家を通じて秀吉に臣従。家臣の津軽為信や一族の九戸政実が背く。90年、秀吉の小田原攻めに参陣するも、為信に先を越され津軽地方を除く、南部7郡のみ安堵された。この時、利直は利家を烏帽子親として元服(偏諱)。91年、豊臣軍を迎えて政実の乱を平定。2郡加増、10万石となる。朝鮮出兵を経て、98年、利家を通じて許可を得た不來方城(のち盛岡城)を再興。秀吉死後、家康に接近。1601年、一揆平定、鉢山開発、藩政の確立に努める。大坂の陣にも出陣	10(1591年)→10
2	真田家・松代藩	真田昌幸(1547-1611)	無し 〔県立長野図書館〕	真田信之(1566-1658)	東信の小族・真田家は武田信玄家臣。78年、昌幸は沼田城を攻略。82年、武田家滅亡後織田に属すが、本能寺の変後は北条・上杉・徳川家の中で帰属を変え領地を保持。83年、上田城築城。沼田領を巡り徳川に攻められるが撃退。89年、秀吉の裁決により沼田領を北条氏に渡した。翌年、北条滅亡後、失地を回復。1600年、関ヶ原へ向かう徳川秀忠軍を上田に足止めした。東軍の長男・信之の助命で、次男・信繁(幸村)と紀州九度山へ蟄居。信之は上田9.5万石を拝領した。22年、松代10万石に移封された	6.5(推定)→9.5(1600年)
3	九鬼家・鳥羽藩	九鬼嘉隆(1542-1600)	無し 〔三重県立図書館〕	九鬼守隆(1573-1632)	志摩水軍の8代当主。信長に従い1578年、鉄甲船をもって毛利水軍を撃破。伊勢・志摩で3.5万石を拝領し鳥羽城に居城。秀吉に従い、九州・小田原・文祿慶長の役で活躍。97年、隠居し、子の守隆に家督を譲る。1600年の関ヶ原では西軍に属し、東軍の守隆の鳥羽城を攻略。戦後、潜伏。守隆の助命により許されたが、その報が届く前に自刃した。守隆は伊勢5.5万石を拝領した	3.5(1578年)→5.5(1600年)
4	北条家・狭山藩	北条氏規(1545-1600)	藩祖 〔大阪府立図書館〕	北条氏盛(1577-1608)	1590年、豊臣秀吉の小田原征伐により滅亡した後北条氏5代当主の北条氏直(徳川家康の娘婿)と北条氏規(4代氏政の弟/和平に尽力)は許され、高野山に蟄居となった。91年、氏直は嗣子無くして死去し、北条家の嫡流は断絶したが、氏規がその後を継いで当主となる。その後、罪を許されて氏規は河内狭山で7千石、氏規の子・氏盛は下野国内に4千石を領することになる。1600年、氏規が没すると氏盛はその家督と遺領を継いで1万1千石の大名となった	0.4(1591年)→1.1(1600年)
5	浅野家・和歌山藩、広島藩	浅野長政(1546-1610)	多くは長晟が初代。長政を広島藩祖⇒初代とする本は1冊のみ 〔広島県立図書館〕	浅野幸長(和歌山/1576-1613)、浅野長晟(和歌山→広島/1586-1632)	長政(長吉)は養父浅野長勝の相婿・秀吉に仕官。1584年、京都の奉行就任以降、豊臣氏の奉行。93年、子・幸長と共に甲斐22.5万石を拝領。98年、長政は五奉行に列する。早くから家康と親交があったため石田らの反感をかい、また家康の政略もあり、99年武蔵府中に蟄居。関ヶ原は親子で東軍に属し、戦後幸長は紀伊一國を、長政は常陸真壁5万石(初代藩主)を拝領。13年に没した幸長の後、弟の長晟が継いだ。19年、福島正則の改易により、安芸国・備後半国を拝領した	〔幸長〕16(1593年)→37(1600年) 〔長晟〕→37(1613年)→42(1619年)
6	蜂須賀家・徳島藩	(正勝は「家祖」) 蜂須賀家政(1558-1639)	藩祖 〔徳島県立図書館〕	蜂須賀至鎮(1586-1620)	家政の父・正勝は秀吉古参の家臣。1580年、播磨三木城攻略の功により、播磨龍野城主となる。82年、備中高松城、翌年の四国攻めなどで活躍し、阿波一國を与えられるが辞し、子・家政が拝領。家政は1600年の関ヶ原では、家政は秀頼に阿波国を返上し、表面上局外中立の立場をとって自らは出陣せずに家老・青木方斎を出陣させ、一方では嫡男至鎮を徳川氏に加担させた。西軍の敗色濃厚となるや、家政は家老を斬り、隠居。戦後、至鎮は改めて家康より阿波を与えられた。至鎮は大坂の冬の陣で活躍し、淡路国を加増された	17.6(1585年)→25.7(1615年)
7	森家・津山藩	森長可(1558-1584)	無し 〔岡山県立図書館〕	森忠政(1570-1634)	長可は可成の次男。信長に仕え、伊勢長島攻めなど各地を転戦。1582年、武田攻めで活躍、北信4郡を与えられ海津城に拠るが、本能寺の変で撤退。本領の美濃金山城に帰り、秀吉に属す。84年小牧・長久手の戦いで戦死。可成の六男・忠政が家督と金山7万石を継ぐ。秀吉死後は家康に接近。1600年2月、信州川中島13.75万石を領して海津城に居城。02年検地して18.9万石余を得た。翌年、美作一國18.65万石に転封となる	
8	中村家・米子藩	中村一氏(?-1600)	無し 〔鳥取県立図書館〕	中村一忠(1590-1609)	秀吉古参の一氏は1573年、近江長浜で200石を拝領。84年、岸和田城主。翌年近江・伊賀で6万石を拝領、水口城主となる。90年の小田原攻めでは山中城を陥落させ、駿府14.5万石を拝領した。豊臣秀次付き家老であったが、その連座は免れている。堀尾義晴、生駒親正と共に「三中老」ともいう。関ヶ原では東軍に属すが、本戦直前の7月に病死。子の一忠は11歳であったが参陣。戦後、米子17.5万石に移封。09年、20歳の若さで急逝、中村家は改易となった	14.5(1590年)→17.5(1600年)
9	大村家・大村藩	大村純忠(1533-1587)	無し 〔長崎県立長崎図書館〕	大村喜前(1569-1616)	有馬晴純の次男。大村純前(すみあき)の養子。1543年、大村家12代当主。63年受洗、バルトロメウの洗礼名をうけ初のキリシタン大名となる。80年、長崎港周辺をイエズス会に寄進。のち長崎が貿易港に発展する基礎をつくる。82年少年使節をローマに派遣。87年、秀吉の九州征討で旧領を安堵された。喜前は関ヶ原の戦いでは当初西軍に味方し赤間ヶ関に出陣するも、東軍に味方する。キリシタンだったが棄教。1607年、庶家一門を追放した御一門払いを断行して権力の確立をはかった	2.14(1587年)→約2.8(1600年)
10	毛利家・萩(長州)藩	毛利輝元(1553-1625)	無し〔広島県立図書館〕。 ほとんど無いが、2004年頃以降、少し「藩祖」あり 〔山口県立図書館〕	毛利秀就(1595-1651)	豊臣政権下で四国・九州征伐の先鋒を務める。1591年1月、広島入城。同年3月、中国8ヶ国の朱印知行目録を与えられる。97年、輝元は豊臣家五大老に就任(のち叔父・小早川隆景も)。関ヶ原では大坂城に入り動かなかったが、西軍の総帥とみなされ防長2ヶ国に減封。剃髪・隠居し6歳の秀就に家督を譲るが、長らく藩政を執行。1604年、長州萩に入城。23年、正式に隠居した	112(1591年)→36.9(1600年)
11	松浦家・平戸藩	松浦隆信(1529-1599)	無し 〔長崎県立長崎図書館〕	松浦鎮信(1549-1614)	現在の長崎県北部の豪族だった松浦党より台頭した隆信が肥前北部及び岐岐を征す戦国大名となった。その子の鎮信(法印)は1587年、豊臣秀吉の九州征伐の折、旧領である北松浦郡・岐岐を安堵された。続いて1600年、関ヶ原の戦いで東軍に与した松浦氏は徳川家康より所領を安堵され平戸藩が確立した	6.32(1587年)→6.32(1600年)
12	伊東家・鉢肥藩	伊東義祐(1512-1585)	無し 〔宮崎県立図書館〕	伊東祐兵(1559-1600)	祐兵(すけたか)は義祐の二男。日向鉢肥城主。島津義久・義弘に追われ、羽柴(豊臣)秀吉に仕える。1587年、秀吉の九州攻めを先導し、翌年鉢肥城にもどり旧領を回復。関ヶ原の戦いでは徳川方に参加中病死。次代の祐慶(すけのり)は家臣の稲津重政の進言を受け、西軍の高橋元種の宮崎城に軍勢を派遣し落城させた。しかし元種は東軍に寝返っていたため、宮崎城は返却された。戦後、家康より所領を安堵された。なお、祐慶は後日、責任を取らせる形で清武城にて稲津重政を討っている	2.8(1588年)→5.7(1600年)
13	黒田家・福岡(筑前/黒田)藩	黒田孝高(1546-1604)	ほとんど無し。だが最近、福岡市博物館や郷土史研究者らは「藩祖」としている 〔福岡県立図書館〕	黒田長政(1568-1623)	官兵衛孝高は秀吉の軍師として活躍。1584年、播磨山崎城5万石を拝領。87年、豊前6郡約12万石を拝領。翌年、中津城に入城。89年、44歳で隠居、子・長政に家督を譲る。秀吉死後は家康に接近。関ヶ原で長政は諸将を東軍に勧誘し、三成軍を撃破した。孝高は九州で西軍の大友義統らを攻めた。戦後、長政には筑前一國52万石余が与えられた。はじめ名島城に入るが、1601年に福岡城に入城した	12(1587年)→52(1600年)
14	鍋島家・佐賀(肥前)藩	鍋島直茂(1537-1619)	藩祖 〔佐賀県立図書館〕	鍋島勝茂(1580-1657)	直茂は龍造寺隆信の家臣。主家の九州5ヶ国支配を補佐した。1584年、隆信が戦死すると子の政家を後見。90年秀吉は政家に隠居を命じ、軍役を免除。朝鮮出兵は龍造寺家臣団を率い、96年龍造寺の一門・家臣も直茂・勝茂父子に忠誠を誓う起請文を出す。関ヶ原では西軍に属すが、西軍の柳川の立花宗茂を討ち、本領安堵を得る。1607年、高房・政家が死去し、主家が断絶。幕府の命により勝茂が龍造寺家臣の家督を相続し、佐賀藩が成立した	4.5(1590年)→35.7(1613年)
15	細川家・小倉藩/熊本(肥後)藩	細川藤孝(1534-1610) 細川忠興(1563-1646)	【小倉藩】無し〔大分県立図書館〕 【熊本藩】無し〔熊本県立図書館〕	【小倉】細川忠興(1563-1646) 【熊本】細川忠利(1586-1641)	藤孝は三淵晴員の子。細川元常の養子となり、足利義晴に仕官。義昭を奉じ信長を頼る。1573年、山城長岡を、80年に南丹後を領知。光秀の娘玉(のちガラシャ)を子忠興の妻とするが、本能寺の変では光秀の誘いを断わり隠居(号幽齋)、忠興に家督を譲る。丹後を統一、秀吉より安堵される。秀吉没後、家康の推挙で豊後杵築6万石が加増。1600年7月、丹後田辺城の幽齋は西軍15,000に囲まれ籠城。和歌の古今伝授を受けた幽齋を憂えた後陽成天皇が仲介し、9月17日開城。忠興は本戦で奮闘。戦後、豊前中津に大封を得た(のち小倉城)。一方、7月ガラシャは三成らの人質要求を拒絶して大坂屋敷で自決。嫡男忠隆正室の千世(利家娘)は姉・豪姫の宇喜多屋敷に逃れた。これに激怒した忠興は忠隆に千世との離縁を命じるが、反発した忠隆を廃嫡。三男忠利を嫡子とする。20年、忠利に家督を譲って隠居(号三齋)。32年、肥後熊本54万石に移封。三齋は八代城に入り、9万5,000石を隠居領とした	12(1582年)→39.9(1600年)→54(1632年)
16	島津家・鹿児島(薩摩)藩	島津義久(1533-1611)、島津義弘(1535-1619)	無し 〔鹿児島県立図書館〕	島津(忠恒)家久(1576-1638)	1587年秀吉に征伐され九州の大半から2ヶ国に減封される。検地で石田三成と縁ができる。99年、重臣の内乱が勃発し、家康の仲介により解決。これにより義弘(当主義久の弟。忠恒の父)は1500人しか関ヶ原に動員できず。東軍の伏見城救援に向かうも拒否され、西軍に属する。関ヶ原では「島津の退き口」といわれる敵中縦断退却を敢行し名を馳せた。戦後、義弘は義久・忠恒は一切不関与の旨を釈明。忠恒も上洛し家康に謝罪、本領を安堵。06年、忠恒は家康から偏諱を受け家久と名乗る	55.9(1595年)→72.9(1634年)

※一人でこの時代を生きた(「先代=初代藩主」)次の外様藩は除外した→松前藩・松前慶広(1548-1616)、津軽(弘前)藩・津軽為信(1550-1607)、久保田(秋田)藩・佐竹義宣(1570-1633)、仙台藩・伊達政宗(1567-1636)、米沢藩・上杉景勝(1556-1623)、伊予松山藩(のち会津藩)・加藤嘉明(1563-1631)、津藩・藤堂高虎(1556-1630)、姫路藩・池田輝政(1584-1613)、高知藩・山内一豊(1545?46?-1605)など

【主要参考文献】『国史大辞典』全17巻(吉川弘文館、1979-97年)／『日本人人名大辞典』1-6巻(平凡社、1984年復刻版第3刷)／『日本史大辞典』全7巻(平凡社、1992-94年)／『世界大百科事典』全36巻(平凡社、1981年)／『朝日 日本歴史人物事典』(朝日新聞社、1994年)など

※この表を作成するにあたり、全国の県立図書館レファレンス担当の方々に大変丁寧なご教示をうけました。ここに深く謝意を表します。